

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	76人	算数	76人	理科	76人
第5学年	国語	85人	算数	85人	理科	85人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

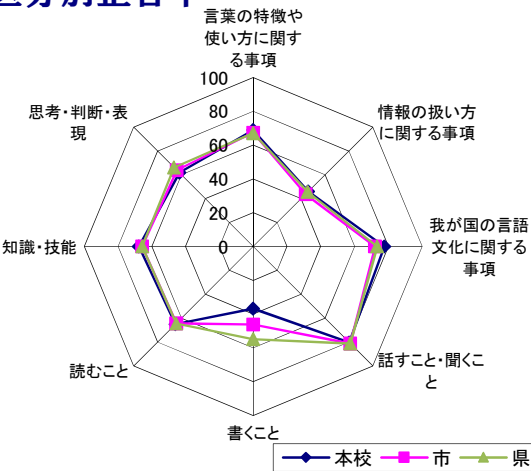
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.9	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	46.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	77.6	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	80.3	81.2	81.2
	書くこと	36.8	46.2	54.9
	読むこと	65.0	64.3	64.5
観点	知識・技能	67.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	61.8	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

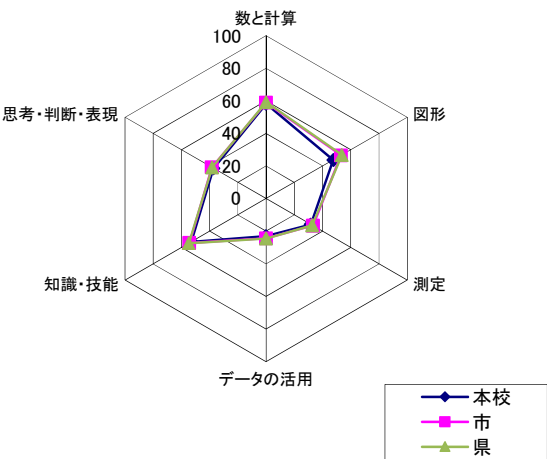
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は68.9%と、市の平均と比べて1.5ポイント高い。 ○対義語の理解に関しては、市の平均を上回っており、正答率も高かった。 ●「主語と述語」においては、正答率が57.9%で、主語についての理解が不十分であった。	・漢字の読み書き、主語・述語、語彙については、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。具体的には、AIDリルを活用し漢字の読み書きを繰り返し練習し、読書活動を充実させ様々な言葉に触れる機会を増やす。また、ローマ字は、ノートに書く場を設け、定着が図れるよう繰り返し指導していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は46.1%と、市の平均正答率と比べて2.3ポイント高い。 ○例文で用いられた「うすい」の意味を選ぶ問題の正答率が高い。	・国語の授業を中心に、教科書の文章中の語句の意味を児童が理解できているか問いかけながら展開し、分からない場合は語句の意味調べをすることを習慣付ける。 ・国語辞典が手に取れる環境づくりをするなど、教科横断的な指導をしていく。意味が複数ある場合は、活用例を見て正しく言葉を使えるよう指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は77.6%と、市の平均と比べて5.5ポイント高かった。 ○へんとつくりを組み合わせる問題の正答率が高い。	・引き続き、漢字の学習で、へんとつくりを意識できるよう助言していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は80.3%と、市の平均と比べてやや低い。 ○「司会者の話し方の工夫を説明した文として適切なものを選ぶ」についての設問では、正答率が81.6%と市の平均正答率を3.5ポイント上回り、話し合いの進め方の工夫を聞き取ることができていた。 ●「相手に伝わるように、自分の考えを、理由をあげながら話すことができるか」についての設問では、正答率が76.3%と市の平均正答率を5.0ポイント下回っていた。	・話し合う機会をさらに取り入れ、話す力と聞く力を高めるために、グループ内で司会などの役割を決め、自分の役割にあった発言ができるように指導していく。 ・学級活動の話し合いで、意見を簡潔にまとめて整理して話し合いをスムーズに進めたり、他教科では根拠を明確にして自分の意見を伝えたりできるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は36.8%と、市の平均と比べて9.4ポイント低い。 ●書くことの平均正答率は、分量・段落分け・構成ともに市の平均正答率を下回っていた。30.3%が無回答であった。	・単元の末にある短文作りなど短い文章を書く機会を増やし、文章を書くことに慣れさせたい。その際にワークシートを活用し、内容と順序を整理して書けるように指導していく。 ・単元の初発の感想や単元末の学習後の感想や自分の考えを書く機会を設け、それを共有することなどで学級全体の児童の書く力を高めていく。
読むこと	平均正答率は65.0%と、市の平均と比べて0.7ポイント高い。 ○物語文では、登場人物の行動の理由を読み取ること、説明文では、指示語の内容を捉えることの正答率が高い。 ●説明文の要約の内容を理解し、要約の空欄に当てはまる言葉を書きぬく問題の正答率は51.3%で、市の平均を10.3ポイント下回っている。	・物語文の学習では、場面の展開や登場人物の心情を正しく読み取れるよう、友達の意見も参考にして登場人物の行動の理由を考えられるよう指導していく。 ・説明文の学習では、段落ごとの要点を読み取り、段落相互の関係性を理解できるようにしていく。各教科や読書活動を通して、様々な文書に触れることで、要約する力を身に付けられるよう、指導していきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	58.2	58.9	59.2
	図形	47.6	53.0	53.7
	測定	31.6	33.1	32.6
	データの活用	23.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	37.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

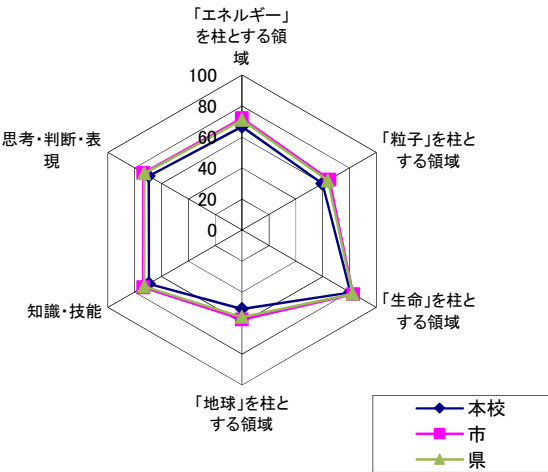
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が58.2%と、市の平均と比べて0.7ポイント低い。 ○大きな数の表し方に関しては、いずれも市の平均を上回っている。 ○市の平均を大きく上回っていないが、基本的な計算問題は比較的正答できている。練習問題や家庭学習等で反復練習を図っているところが大きいと考えられる。 ●数直線を読み取る多くの問題で正答率が低い。数直線を苦手とする児童が多いことが伺える。 ●乗法の計算の仕方を説明する問題では、校内の正答率が5.3%にとどまった。記述式の問題であるため、答え方の型が分からなかったり、諦めてしまったりする児童が多いと考えられる。	・基本的な知識や計算の技能は、ある程度定着していると感じられる。今後も基礎・基本の定着が図れる学習を継続していく。 ・数直線を活用する力を高めるために、文章問題の際には数直線にかく練習をしたり、数直線を使うとよいという実感をもてるような活動を取り入れたりする。 ・やり方を説明する問題に慣れるように授業の中で友達と説明し合う活動を取り入れたり、ノートにやり方をまとめる活動を取り入れたりする。 ・文章問題を立式する際に、図に表す活動を設けて式の意味をイメージできるようにし、なぜそのような式になったのかを児童自身に説明させて共有し、学級全体の理解を深めるようにする。
図形	平均正答率が47.6%と、市の平均と比べて5.4ポイント低い。 ○球の半径を利用して箱の長さを求める問題の正答率が高かった。授業で実際に体験したことが功を奏していると考えられる。 ●作図の問題の正答率が10ポイント以上低い。コンパス等道具を正しく使うことに課題があるとともに、図形の性質の理解度が低いことが原因として考えられる。	・実際に具体物を使用して体験をするということが、知識や理解の定着を促すので、今後も継続していく。 ・授業の中だけでなく、生活の中で図形を感じられるよう支援する。 ・作図の問題については、器用不器用に関わらず、コンパスや定規等の道具を正しく使えるよう、繰り返し練習をする。 ・図形の性質を整理して教え、その性質を生かして作図する活動を取り入れたり、掲示物等で知識の定着を図ったりして、図形の性質が理解できるようにする。
測定	平均正答率が31.6%と、市の平均と比べて1.5ポイント低い。 ●領域としての平均点はあまり差が見られないが、はかりの目盛りを読み取る問題では、市の平均を10ポイント近く下回っている。実際に秤を使うという生活経験の少なさと、デジタルの製品が増えてきていることが原因として考えられる。	・実際に本物に触れるという経験を増やす。 ・物の重さ当てゲームなど、遊びの中で学ぶことができるような活動を取り入れ、意欲的に体験できるように工夫する。
データの活用	平均正答率が23.0%と、市の平均と比べて1.4ポイント低い。 ○棒グラフの読み方を間違えていることを指摘する問題では、記述式にも関わらず、市や県の平均を上回った。縦軸の数値に着目するという基本的事項が定着している。 ●目的に応じてグラフを選ぶという問題の正答率がいずれも低かった。生活の中でグラフを描くという経験がないことが原因として考えられる。	・自分の好きなものなど自分に関わる身近なグラフを描くという活動を取り入れ、自分事として考え、適切なグラフを選ぶという意識を高める。 ・算数の授業だけでなく、理科や社会科、総合的な学習の時間等でも、グラフを扱う場面を多く取り入れ、生活に基づいてグラフを活用できるようにする。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	66.7	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	59.9	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	80.7	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	50.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	69.3	73.8	72.8
	思考・判断・表現	69.5	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率が66.7%と、市の平均と比べて5.4ポイント下回っていた。 ○「磁石に引き付けられるものについて理解しているか」の問題で、正答率が89.5%とよくできている。実体験による実験や観察の結果と考えられる。 ●「日光を集めたときの明るさとあたたかさについて理解しているか」の問題では、正答率が市平均と比べて11.8%低く課題が見られる。	・実体験による実験や観察を充実させ、実感を伴った理解を充実させていく。また、その際には実験前に児童一人一人が予想を立て、実験後に考察結果をまとめる授業展開をする。 ・図や表などを使い、実験の結果をまとめるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率が59.9%と、市の平均と比べて5.3ポイント下回っていた。 ●「形を変えても重さは変わらないことについて理解しているか」の問題では、正答率が市平均と比べて13.1%低く課題が見られる。 ●「同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるか」の問題では、正答率が低い。	・実感を伴う実験や観察を取り入れていく。 ・図や表、資料などを正しく読み取る機会を意図的に設け、状況を正しく理解できるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率が80.7%と、市の平均と比べて2.1ポイント下回っていた。 ○「昆虫の住みかについて理解しているか」の問題では、正答率が96.1%とよくできている。 ●「昆虫の成長と体のつくり」の内容では、「昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いを捉えることができるか」の問題で、正答率が市平均と比べて9.4%低く、無回答率も10.5%と高い。資料を基に記述して回答することに課題が見られる。	・今後も実体験による実験や観察を充実させ、実感を伴った理解を充実させていく。 ・図や表、資料などから分かることを、自分の言葉でまとめる機会を設けていく。昆虫の観察をして分かったことをノートにまとめる際に、図に矢印で説明を書き込んでいくなどして理解を深めるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率が50.9%と、市の平均と比べて6.8ポイント下回っていた。 ●「かげが太陽の反対側にできることを理解し、かげ踏み動きと結び付けられているか」の問題では、正答率が市平均と比べて10.3%低く課題が見られる。 ●「方位磁針の使い方を身に付けているか」の問題では、正答率が低い。	・実感を伴う実験や観察を取り入れていく。 ・器具の使い方など、図を使ってまとめるなど、ポイントを分かりやすくまとめることを意識していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●○学習について、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」では80%、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」では、75%の児童が肯定的回答をしており、前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

○学習について、「学習して身に付いたことは、将来の仕事や生活に中で役に立つと思う」と肯定的に回答している児童が93.8%とほとんどであり、将来を見据えた学習の大切さを理解していることが分かる。

○●「授業を集中して受けている」と肯定的に回答している児童が90%いるが、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童は61.3%と低く、県の平均を14ポイント下回っている。授業のめあてを明確にし、主体的に課題を追進できるようにしたり、まとめや振り返りをしっかり行ったりすることで一人一人が何を学んだか明らかにし、分かる授業の展開に努めていく。

○学校生活においては、「学校のきまりを守っている」の肯定的回答が92.6%で、規範意識をもって生活していることが分かる。また、「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」に肯定的に回答した児童は93.8%と高い割合なのに対し、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」では、61.3%と低く、県の平均を7ポイント下回っている。係や当番の自治的活動を促し、活動に対して認め、励ましていくことで自己有用感を高めていくようにしたい。

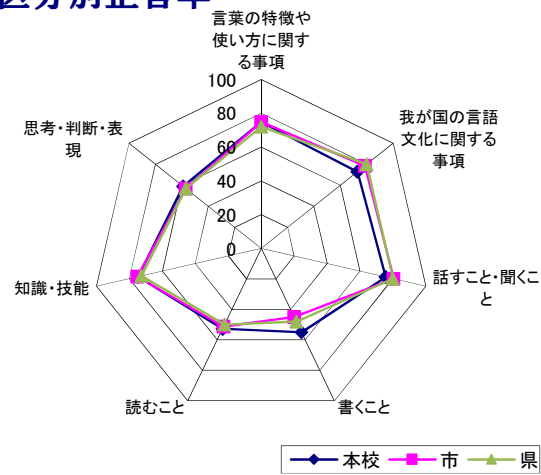
●○「自分には、よいところがあると思う」「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしようせんしている」に肯定的回答をした児童の割合が県の平均と比べて大きく下回っている。今後、様々な活動の中で、自他のよさを認め合ったり、失敗を恐れず試行錯誤したりする機会を確保して、児童一人一人の自己肯定感が高められるようにしていく。

○「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答の割合が90%で、県の平均と比べて3.1ポイント高くなっている。「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答の割合も96.3%と高い。家庭の中で安心感を伴って生活できていると推察できる。今後も、家庭との連携を密にし、児童の育成に努めていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.8	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	72.9	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	75.6	80.4	80.0
	書くこと	55.0	45.1	48.0
	読むこと	52.7	51.3	50.0
観点	知識・技能	74.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	59.0	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

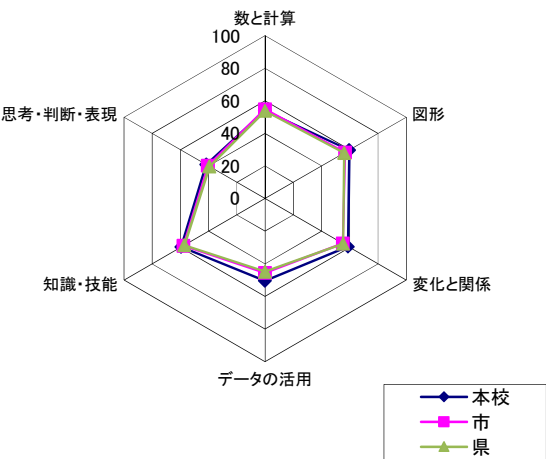
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は74.8%で、市の正答率と同等。 ○「兵隊」と正しく漢字を書くことについて、市の平均正答率よりも5.6ポイント高かった。 ●誤答の内容を見ると、「やくそく」の漢字が正しく書けていない児童の割合が、市と比べて8.1ポイント下回っていた。	・文章の内容に合った漢字を正しく書けるよう、日頃から多くの文章に慣れ親しんだり、国語辞典や一人一台端末を使ってすぐに調べられる環境づくりをしたりして、語彙を増やしていきたい。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は72.9%で市と比べて5.7ポイント低かった。 ●「頭をひねった」の使い方について正しい答えを選択している児童の割合が、市と比べて5.7ポイント、県と比べて7ポイント下回った。	・分からない言葉を辞典や一人一台端末で調べる機会を増やしたり、ことわざを使って例文を書いたりするなど、ことわざに慣れ親しむ活動を取り入れる。 ・授業等で、ことわざを取り上げた際には、意味の似ていることわざも合わせて取り上げるなど、複数のことわざを関連付けて知ることができるような工夫をする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は75.6%で市と比べて4.8ポイント低かった。 ●「司会者の発言に適する内容を書く」設問では、市や県の平均回答率と比べる7ポイント程度低く、無回答の児童の割合も11.8%であった。	・記述式の問題では、無回答の児童も多いことから、指定された条件を守りながら話す（書く）経験が必要だと考える。単元の終わりなどで、条件を出して話す（書く）機会を設定していきたい。
書くこと	平均正答率は55%で、市と比べて9.9ポイント高かった。 ○どの設問においても、市全体、県全体の正答率よりも上回っている。特に、「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことができるかどうかをみる。」の設問では、市全体の正答率よりも13.8ポイントと大幅に上回っている。	・市の正答率は上回ってはいるが、書く力が十分とは言えない。今後も国語に限らず、様々な授業で積極的に書く活動を取り入れていきたい。また、文章を書く際には、例を提示し、条件を守りながら記述できるように指導する。 ・無回答の児童も多いことから、書くことに慣れていくことが課題だと考えられるので、物語文や説明文の学習を行う際に、自分の考えを書く活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は52.7%で、市と比べ1.4ポイント高かった。 ○問題別に見ると、説明文よりも物語文の設問の方が、全体と比べて上回っているものが多い。特に、「登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像することができるかどうかをみる。」設問では、市全体の正答率よりも10.9ポイント上回った。 ●「文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかをみる。」設問は市全体と比べて、7.2ポイント下回った。	・物語文では場面の様子や登場人物の心情を丁寧に読み取って、登場人物の心情の変化等を捉えることができるように指導していきたい。 ・説明文では、内容の要点を捉えるために、段落やまとまりに着目させる。文章を要約する際にも、段落やまとまりを意識し、文章の構成を捉えさせた上でまとめるよう指導していく。また、スモールステップとして、キーワードとなる言葉や文を見つけさせるなどの指導の工夫もしていきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	53.9	54.9	53.7
	図形	59.6	56.6	56.1
	変化と関係	58.8	55.1	55.2
	データの活用	50.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	59.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	41.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

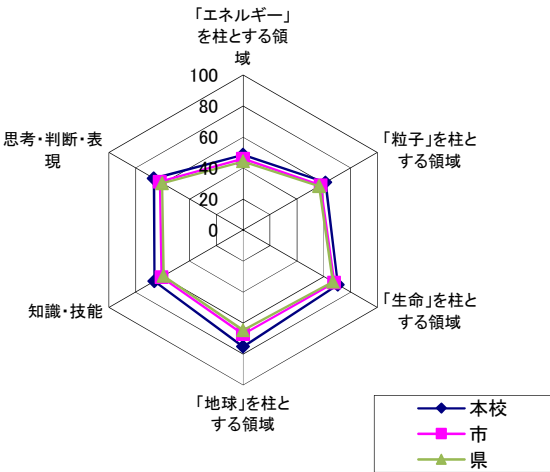
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が市の平均は54.9%、校内の平均は53.9%とやや下回っている。 ○わり算の性質を利用した計算の工夫について説明する問題では、市の平均20.3%に対して、校内の平均28.2%と上回っているものの、正答率は30%に満たない。 ○27は0.27の何倍かを選択する問題では、市の平均70.1%に対し、校内の平均76.5%と大幅に上回っており、小数の仕組みを理解している。 ●数直線上の目盛りが表す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、市の平均55.8%に対し、校内の平均44.7%と正答率が極端に低くなっている。	・基礎的な計算力を更に高めるために、算数ドリルやAIDドリルを併用し、定着度に応じて問題に取り組めるようにする。 ・被除数と除数に同じ数をかけても同じ数で割っても商が変わらないことや、末位に0がある場合の計算の仕方などのわり算の性質について、具体的な数値を用いて説明することで、児童の理解を促す。授業の展開においては、図や式を用いながらノートに自分の言葉で記述させ、ペアやグループ等の少人数で説明したり、学級全体に向けて発表したりする機会を意図的に組み込む。
図形	平均正答率が市の平均は56.6%、校内の平均は59.6%と上回っている。 ○面積の求め方について、示された求め方をもとに、正しい式を選ぶ問題で市の平均68.9%に対し、校内の平均77.7%と上回っている。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題では、市の平均を上回っているものの、正答率は50%に満たない。	・角を2つに分けて180度と残りの角の大きさの和で表す方法や、360度から減法を用いて表す方法など、授業で扱う問題について複数の解法を示すことで、問題を多面的に捉え、柔軟に対応できるよう支援していく。 ・図形においては個人差が大きいため、具体物を示す等児童がイメージしやすいように支援していく。
変化と関係	平均正答率が市の平均は55.1%、校内の平均は58.8%と上回っている。 ○表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題で市の平均79.4%に対し、校内の平均は87.1%だった。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題は校内の平均51.8%で、市の平均41.4%よりも10%以上、上回っている。 ●「変化と関係」の問題は全体に高得点だが、割合を使った比べ方について説明する問題は市の平均31.3%に対し、校内の平均は23.5%だった。	・授業において、「基にする量」を意識させながら、2つの数量の関係性を数直線に表す機会を設ける。数直線の活用においては、問題場面を正しく捉えるための手立てや考えの根拠とする等、「変化と関係」以外の単元でも生かしていけるようにする ・文章問題を立式する際に、図に表す活動を設け、式の意味をイメージできるようにし、なぜそのような式になったのかを児童自身に説明させて共有し、学級全体の理解を深めるようにする。
データの活用	平均正答率が市の平均は45.5%、校内の平均は50.4%と大きく上回っている。 ○グラフから読み取れることとして正しいものを選ぶ問題や、表から分かることを選択肢から選ぶ問題では、正答率が高かった。 ●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題では、市の平均9.4%に対し、校内の平均は5.9%だった。また、この問題は45.9%の児童が無回答だった。	・グラフの読み取りについては、算数の授業に限らず、理科や社会科等、他教科に渡って指導をしてきた成果であると考えられる。今後も、教科横断的な指導をしていくことで、更に理解を深めていく。 ・考えをまとめる際の手立てとして、時間的な変化や、変化の特徴、その傾向に注目させるように指導していく。また、授業の中で、友達と説明し合う活動や、自分の考えを順序立ててノートにまとめる活動等を意図的に組み込み、考えたことを表現する力を高める。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	48.6	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	61.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.6	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	75.3	67.2	64.6
観点	知識・技能	66.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	66.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は48.6%であり、市の正答率を2.6%上回った。 ●簡易検流計の針の振れ方から分かることを答える設問は短答式であったが、無回答率が12.9%と高く、正答率も18.8%と、県の平均を11.6%下回った。	・グループ学習を効果的に取り入れ、機器の取り扱い方を互いに教え合うようにするなど、学び合い学習を行うことで用語などの知識をしっかりと身に付けられるようにしていく。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめるだけでなく、その理由なども考えさせ、自分の言葉や図でまとめる学習を今後も継続していく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は61.3%であり、市の正答率を3.6%上回った。 ○10問の設問中、8問は県の正答率を上回った。試験管の水面近くを熱したときの水のあたたまり方を理解しているかどうかをみる問題では、無回答率が0%で正答率も76.5%と、県の平均より14.5%高かった。 ●仮説が正しかった場合に得られる実験の結果を構想できるかどうかをみる問題では、県の正答率を3.5%下回った。	・ICT機器を活用して既習の内容や生活経験を提示するとともに、自然現象を観察するときや日常生活の中で、学習内容を積極的に活用できるようにする。 ・実験や観察をして得られた結果をまとめるだけでなく、その理由なども考えさせ、自分の言葉や図でまとめる学習を今後も継続していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は70.6%であり、市の正答率を2.8%上回った。 ○5つの設問の中、4つが県平均を上回った。特に、骨と関節について理解しているかを問う設問の正答率は91.8%と県平均より10.8%高かった。 ●季節と植物のようすについて理解しているかの設問は県の平均を7.8%下回った。	・ICT機器を活用して知的な情報をたくさん取り入れるとともに、定期的に校庭や中庭の植物の観察と記録をさせることで成長の過程を押さえる。 ・人体模型だけでなく、実際に自分や友達の体に触れるなど具体的な活動を継続する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は75.3%であり、市の正答率を8.1%上回った。 ○9つの設問全てにおいて県平均を上回った。特に、蒸発について理解しているかの設問では、17.7%上回った。 ●空気中の水蒸気が冷やされると液体の水になることを理解しているかの設問で、短答式の無回答率が9.4%であった。	・実験器具及び用具の名称や使い方に慣れるように、グループ活動を意図的に実施する。 ・ICT機器を活用して既習の内容や生活経験を提示するとともに、自然現象を観察するときや日常生活の中で、学習内容を積極的に活用する。 ・実験や観察を通して得られた結果をまとめるだけでなく、その理由なども考えさせ、自分の言葉や図でまとめる学習を今後も継続していく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、「勉強していても楽しい、楽しい、不思議だな、なぜだろうと思うときがある」「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」「学習して身に付いたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と8割を超える児童が肯定的回答をしている。これらのことから、学習に対する意欲の高さを感じられ、自分で工夫して学習するスタイルが身に付いている児童が多いことが分かる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答している児童が5割程度と少ない。朝の活動において、1分間スピーチやグループでのトークタイムを設けたり、授業においてプレゼンテーションなどの発表の機会を与えたりしているが、自分の考えに自信をもって発表することができていない児童が多いことが原因であると思われる。効果的な話し方についての指導はもちろんであるが、聞き手側も共感したり、質問を考えたりする意識をもちながら聞くという意識をもたせ、よりよいコミュニケーションが取れるよう工夫して指導していきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答の割合は9割を超え、高いポイントを示している。一方で、「自分がクラスの人に役立っている」と思っていない児童が6割程度いる。係や当番活動、委員会やクラブ活動、縦割り班活動などにおいて、一人一人が活躍する場を意図的に設け、児童の自己肯定感が高められるようにしていく。

○●「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の割合は9割を超え、「自分にはよいところがあると思う」の肯定的回答の割合も8割を超えている。一方で、「自分の行動や発言に自信をもっている」の肯定的回答は6割程度である。キャリア教育等において、将来に関することを考える際に、自分の得意なことを確認したり、これからの自分に必要な課題等を考える機会を設け、自分の良さを振り返らせたりして、自信をもって学習や生活に取り組めるよう指導したい。

●「平日、テレビや動画などを4時間以上見る」と回答した児童は2割を超えている。また、「ゲームを等で遊んだりする時間」が3時間を超える児童が3割を超えている。テレビや動画、ゲームの時間を学習や読書の時間に充てられる

宇都宮市立築瀬小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的に学ぶための学習課題の設定	・社会科を中心に各教科の必要な場面で精選した資料の提示をし、学習理解を深めている。 ・様々なICT機器の効果的な活用をし、児童の興味・関心を高めると共に、学習の効率化を図っている。	「授業を集中して受けている」の質問に対し肯定的回答が9割という結果であった。しかし、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」については、肯定的回答が6割という結果であった。今後も引き続き力を入れたい。
児童同士が学び合える活動の工夫	・学習形態を工夫し、児童一人一人の考えを伝え合う授業の展開をする。 ・モジュール学習の時間を活用したトークタイムを実施し、多面的なものの見方・考え方を育むと共に、話し合うことの楽しさを味わわせている。	「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられている」「クラスの友達と話し合う活動をよく行っている」の質問に対し肯定的回答が8割を超える結果であった。しかし、「自分の意見を発表することは得意である」かの肯定的回答が4割程度という結果であった。今後も児童一人一人が自信をもてるような支援を継続していきたい。
主体的な学びにつなげる振り返りの充実	・ふり返り「や・な・ぜ」の活用を通して、学習から考えたことを表現する時間を確保し、それを友達と共有して新たな気づきにつなげている。また、振り返りを積み重ねることで学びの変容を見取っている。	「授業の最後に、学習したことを振り返っている」の質問に対し肯定的回答が9割に近い結果であった。今後も継続し、学びを共有したり深めたりできるよう取り組みたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
文章や資料の読み取りに課題が見られる。また、文章や資料・図などに対する自分の考えをもち、文章化する学習も必要であると分かった。	様々な場面での資料の活用	様々な教科で資料や図を活用する場面を意図的に設定し、児童がそれらから分かったことを話し合ったり、自分の言葉でノートにまとめたりする機会を多く取り入れていく。